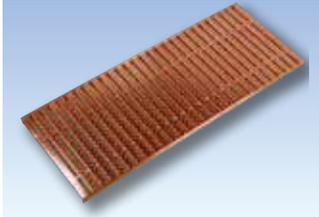
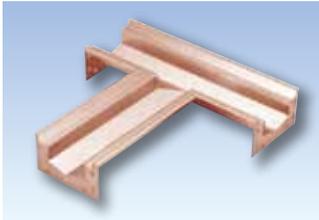


銅傳シリーズの排水システム

排水システムの全てに銅を使用することで、さらに高い殺菌効果が得られる。



グレーチング



排水トラフ



バスケット



集中研

日本ではスタートしたところだが、欧米で銅の排水システムはほとんどと広がりを見せている。これからも同社が銅の殺菌効果を世に広める続けることで、日本でも銅の排水システムがスタンダードになる日が来るかもしれない。

名古屋屋にほど近く「鑄物の街くわな」として有名な三重県桑名市。この町に1973(昭和48)年に創業したホクセイ株式会社がある。創業者で代表取締役の山下氏と営業開発部の吉澤氏にお話を伺った。

同社は日本で初めてステンレス製のグレーチングを製造販売した会社だ。グレーチングは主に鑄鉄製だが、溝に菌が繁殖しやすいという欠点がある。そこで、いち早くステンレスの衛生性に着目し、創業と同時にステンレス製グレーチングの製造販売に乗り出したのである。

それでは今なぜ、同社は排水システムに銅を使用したのだろうか。

「ところが、今まで扱ったことのない純銅の作業は苦難の連続でした。純銅はやわらかいので加工は容易ですが、ステンレスと比べ溶接作業がとて難しい。銅は熱伝導率がいいので、溶接をすると熱が一瞬にして伝わり、コックをつかむのに時間がかかりました」と吉澤氏は語ってくれた。しかし、純銅製のグレーチングはステンレス製に比べ、コスト高でなかなか世間に受け入れられてもらえなかった。

「創業からステンレス製のグレーチングを製造販売してきましたが、今では世の中にほとんど普及し、そろそろ新たなステップに進む時期ではないかと考えていました。そんな時たどり着いたのが、他の金属にはない、ずば抜けた銅の殺菌効果、だったのです。近年、食中毒や院内感染が大きな社会問題となつていますが、さらに安心・安全な製品を提供するため病院や介護施設、厨房向けに銅を使用した製品、銅傳シリーズを作りました」と山下氏。

現状では満足せず「さらに安心・安全な製品をお客様に提供したい」という強い思い、そして揺るぎない挑戦心が新たな製品を生み出しているのだ。

現在では、さらに殺菌効果が高まるようグレーチング、トラフ(側溝)、ごみを集めるバスケット、排水を受ける集中研など排水システム一式で提案を行っている。しかも、この排水システムはHACCPという衛生管理法に対応した製品で、菌をたたく、清掃しやすい工夫が施されている。

着眼点が光る 銅の殺菌効果を 活用した排水システム

私たちが普段街中などでよく目にする道路やビルの溝蓋、側溝などの「排水システム」。なんとこれらの製品に銅が使われているという。割高な銅がなぜ排水システムに使用されているのか…。その秘密を探るべく三重県桑名市に向かった。

銅の殺菌効果との出会い

揺るぎない挑戦心



ホクセイ株式会社
代表取締役 山下 三男氏



営業開発部
部長 吉澤 智博氏

